

平成27年度 学校評価

[各校の重点取組について]

一人ひとりの子どもの教育的ニーズに基づいた指導・支援の徹底を図り、一人ひとりの子どもの良さが積極的に認められる教育を実践していきます。そのため、「確かな学力と体力、

学ぶ意欲を高める学校」「子どもの心を大切にしたい温かい学校」、「保護者や地域住民に信頼される学校」の3点に努力してまいります。以下の取組についての状況を報告いたします。

学校教育に関する重点取組

1 教育・学習内容を充実させ、確かな学力を身につけさせる		評価Ⅰ(教職員)	評価Ⅱ(校園長)
(1) 授業改善の取組を促進するとともに家庭との連携により、学力向上を推進する (2) 特別支援教育充実の取組を促進し、自立や社会参加に向けた主体性を育成する		2.5	3
取組とその成果	課題と改善策		
<ul style="list-style-type: none"> ・朝学習で100問計算プリントを活用する。 ・教員自作の「毎日の算数プリント」を家庭学習とする。 ・読書力向上担当を中心とし、図書室の環境整備や読み聞かせ等の活動を充実させる。 ・特別支援コーディネーターを中心に児童の実態を把握し、学校全体で共通理解することで、ニーズに応じたきめ細やかな教育を推進する。 ・特別支援教育においては、自分たちから名前を呼んだり、困っている友だちがないかと考えたりすることに力を入れてきており、成果があがりつつある。 ・実物投影機等のICTを積極的に活用し、わかりやすい授業づくりに努める。 	<ul style="list-style-type: none"> ・児童の意欲は高まってきているが、主体的な学習にはいたっていない。 ・思考力・判断力・表現力の育成については、まだ課題がある。 ・高学年の算数を一時二単元平行型にしたが、児童に混乱はなかったか。 ・学習習慣を身につけることが難しい児童もいるが、放課後学習を充実させることで、分かる喜びを感じさせ、自信を持たせたい。また、そのためには、会議を精選していくことも必要。 		
2 心の教育を充実させ、自己実現の意識の高揚を図る		評価Ⅰ(教職員)	評価Ⅱ(校園長)
(1) 道徳性育成の取組を促進し、思いやりに満ちた人間関係及び社会とのかかわりづくりに努める (2) 基本的な生活習慣確立の取組を促進し、心身共に健全な育成を図る (3) キャリア教育の取組を促進し、社会的自立に必要な能力を育成する		2.5	2.5
取組とその成果	課題と改善策		
<ul style="list-style-type: none"> ・道徳教育および人権教育の年間計画を立てるとともに、他教科等との関連を図り、教育活動全体を通して道徳的指導を行う。 ・ペア活動で異年齢交流を実施し、ふれあう機会をもつ。 ・遅刻や欠席の多い児童については、複数の教員によって家庭訪問等の対応を迅速に行い、実態を把握した上で問題の早期発見、早期解決に努める。 ・授業参観では全校一斉に人権授業に取り組み、家庭とともに人権について考えるきっかけとする。 ・情報モラルの育成について、教員自身が研修を実施し、意識を高める。 	<ul style="list-style-type: none"> ・児童の自立心を育むためには、教師が児童の仕事を取ってしまうように注意する必要がある。児童を信じて任せてみることも必要。 ・道徳の授業で資料・教材を十分に扱いきれていない場面がある。研修や先進校の視察等を通して授業力の向上を図っていきたい。 ・基本的な生活習慣の確立など家庭環境に多くの課題をもつ児童が多く、家庭や関係機関と十分連携して取り組んでいく必要がある。 ・あいさつがきちんとできるよう、「朝のあいさつ運動」に取り組む。 		

3 食育や体育を充実させ、健康な体づくりに取り組む		評価Ⅰ(教職員)	評価Ⅱ(校園長)
		(1) 食育を通して生活改善の取組を促進し、望ましい生活習慣を育成する (2) 体育・スポーツ活動の取組を促進し、体力・運動能力の向上を図る	2.5
取組とその成果	課題と改善策		
<ul style="list-style-type: none"> ・アナフィラキシーやアレルギーに関する研修を実施し、正しい知識を得た上で子どもたちに指導できている。 ・栄養教諭が学級担任と連携しながら調理実習や1年生の給食指導に入ることで、意欲・知識等をいっそう高める。 ・日々の体育学習の充実とあらゆる機会を通じて、スポーツに親しむ児童の育成に努める。 ・体育館での業間体育を実施し、体力保持に努める。 ・長縄や体幹トレーニング等、広い場所を必要としない運動を取り入れ、運動場の無い中でも体力の向上が図れるように工夫する。 	<ul style="list-style-type: none"> ・ハンカチ・ティッシュ・手洗い指導等基本的な生活習慣について、保護者への協力を呼びかけながら指導する必要がある。 ・来年度も一学期は運動場が使用できない。体力の保持、運動量の確保のために、工夫しているが、今後も一層努力していく必要がある。 		

4 安全な教育環境を確保し、防災意識の高揚を図る		評価Ⅰ(教職員)	評価Ⅱ(校園長)
		(1) 安全教育の取組を促進し、登下校及び校内の安全確保を図る (2) 防災教育充実の取組を促進し、危機管理能力の向上を図る	2.5
取組とその成果	課題と改善策		
<ul style="list-style-type: none"> ・定期的な校区内パトロールの実施と緊急の場合の対応の仕方を徹底する。 ・耐震化工事に伴い、これまで以上に安全面に配慮した避難訓練と防災訓練を消防署や警察等の専門家の指導・助言のもとに実施する。 ・校門指導で、児童の登校の実態を把握するとともに、交通ルールを守って安全に登校をするよう声かけを行う。 	<ul style="list-style-type: none"> ・校区内には商店街等、狭い道が多く、交通ルール・歩行マナー等についての指導を一層徹底していく必要がある。 ・新校舎における避難経路等、十分に職員・児童で共通理解を図る必要がある。 ・パトロール後、意見交流をする機会がなかなかもてていないので、危険ポイントの写真等を保存し、いつでも参照できるようにする必要がある。 		

5 家庭・地域・学校の連携を深め、信頼され、活力に満ちた学校園づくりに取り組む		評価Ⅰ(教職員)	評価Ⅱ(校園長)
		(1) 教職員の資質向上の取組を促進し、学校の組織力及び教育水準の向上を図る (2) 地域資源活用の取組を促進し、開かれた学校園づくりを図る	2.5
取組とその成果	課題と改善策		
<ul style="list-style-type: none"> ・教育活動の公開や情報発信に努め、保護者や地域に信頼される教育活動を推進する。 ・若手教員に対する研修会等を毎月行い指導力向上に努める。 ・日々の課題に対し教職員が共通理解を行い、課題解決に向けた組織的に取り組む。 ・全教員が積極的に授業公開し(特に若手教員へ向けて)、意見交流を行うことで、指導方法等の改善向上に努める。 ・キャリア教育や環境体験活動等において地域人材・資源を積極的に活用する。 	<ul style="list-style-type: none"> ・新校舎への引っ越しで状況が変化することを教職員がしっかり理解し、地域行事の参加方法や保護者・地域との連携に、柔軟に対応していくことが課題である。 ・若手教員だけではなく、学校の中核となるミドルリーダーの育成も同時に図っていく必要がある。 		

教育目標	評価Ⅰ(教職員)	評価Ⅱ(校園長)
	2.5	3
(1) 教育目標の達成に向けた充実した教育活動の展開 (2) 教育目標の具現化と指導の充実		

取組とその成果	課題と改善策
<ul style="list-style-type: none"> ・保護者への教育目標の理解を図るとともに、学校便りや学級便り等で学校と家庭が連携しながらその実現に努める。 ・あいさつ(礼を正す)、あつまり(時を守る、ルールを守る)、あとかたづけ(場を清める)の3つの「あ」を徹底化を図り、意識が高まっている。 ・育てたい力、重点取り組み、アプローチプランを設定し、すべての教育活動の中で実現に向けて取り組んでいる。 ・小中連携の研修会を行い、教科指導・生徒指導等の視点から意見交換することで児童・生徒理解に努める。 	<ul style="list-style-type: none"> ・目標にある「自ら学ぶという」姿勢がまだ十分ではない。ベースとなる学習規律は身につけてきているので、それを「自ら学ぶ」姿勢に繋げていくことが重要。 ・指示や課題を与えられないと動けない児童が多い。 ・清掃に関して、人的・時間的に不足している部分があった。清掃範囲や時間について検討する必要がある。

研究テーマ	評価Ⅰ(教職員)	評価Ⅱ(校園長)
	2.5	2.5
(1) 研究テーマの達成に向けた充実した教育活動の展開 (2) 研究テーマの具現化と指導の充実		

取組とその成果	課題と改善策
<ul style="list-style-type: none"> ・研究推進委員会を毎月開催し、課題や情報を共有しながら全教職員で協働して進める。 ・授業研究・授業公開を行い、外部講師を招いて専門的な観点からの助言を頂く。また、事後研究の研究討議をグループで行いより活発な意見交換を行う。 ・学校独自の算数テストを実施し、分析した内容を研究に生かす。 ・授業でペアトーク、グループトーク等の言語活動を充実させることにより、主体的に問題を解決する力や、思考力・判断力・表現力を育てる。 	<ul style="list-style-type: none"> ・言語活動の取り組みを、他の学習及び主体的な活動に結びつけていく必要がある。 ・系統性を持たせ、1年～6年の育ちを見通した研究を推進することが課題である。 ・表現する力、説明する力には依然として課題がある。 ・問題提示・発問の工夫について研究をすすめてきたが、より一層の努力を要する。

	評価Ⅰ(教職員)	評価Ⅱ(校園長)

取組とその成果	課題と改善策

学校関係者評価

※ 評価Ⅲの基準

4:よく取り組んでおり、成果が大きい
2:取り組んでいるが成果が十分でない

3:熱心に取り組んでおり、今後が期待できる
1:取組が不十分である

学校関係者意見等	評価Ⅲ
<p>1 教育・学習内容を充実させ、確かな学力を身につけさせる</p> <ul style="list-style-type: none"> ・毎日の算数の取り組みは素晴らしい。より一層の学力向上のためにも是非続けて頂きたい。 ・子ども達の授業態度が大変落ち着いている。先生方の指導の成果であると思われる。 ・ICTを積極的に活用しており、先生方がわかりやすい授業づくりに努められているのがわかる。 	3
<p>2 心の教育を充実させ、自己実現の意識の高揚を図る</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ケータイやスマホの使い方が心配。所有の低年齢化が進んでいるのではないかと。ネットでいじめ動画をアップロードする事例もあることから、情報モラルの指導を一層充実させてほしい。また、学校で活用状況等のアンケートをとることで、指導に生かしてほしい。 ・いじめが起きないように、道徳教育等を通して指導を徹底してほしい。 	3
<p>3 食育や体育を充実させ、健康な体づくりに取り組む</p> <ul style="list-style-type: none"> ・運動場が全く使用できない状況に課題がある。様々な工夫をしているが、さらなる体力向上の取り組みを進めてほしい。 ・夜更かしをする子どもが多いと聞く。家庭でゲームやケータイばかりしているのではないかと。家庭への啓発も必要である。 	3
<p>4 安全な教育環境を確保し、防災意識の高揚を図る</p> <ul style="list-style-type: none"> ・みまもり隊等、地域と連携しながら子ども達の安全を守る活動を検討する必要がある。 ・来年度、新校舎は完成するが、旧校舎の取り壊し・運動場の整地等、耐震化工事は8月末頃まで継続される。子どもの安全を図るため、地域や家庭の協力が大切となる。 	3
<p>5 家庭・地域・学校の連携を深め、信頼され、活力に満ちた学校園づくりに取り組む</p> <ul style="list-style-type: none"> ・来年度は耐震化工事が終了し、新校舎へ移転することとなる。地域が学校を使用する際のルールを新たに作成する必要がある。 ・家庭間のつながりの希薄さが気になる。コミュニティスクール等、地域とともにある学校づくりを進めていくなかで、学校・家庭・地域がしっかりと連携していく必要がある。 	3
<p>■教育目標</p> <ul style="list-style-type: none"> ・知徳体は教育の不易のものである。 ・若い先生方が増えてきているので、授業がしっかりとできるように頑張ってもらわなければならない。生徒指導的なことは特に組織的に取り組んで欲しい。 	3
<p>■研究テーマ</p> <ul style="list-style-type: none"> ・漢字・計算等、基礎基本の徹底を継続してほしい。 ・算数の文章問題等、子ども達の読解力が低下していないだろうか。言語活動を充実させ、コミュニケーション力・読解力等を高めてほしい。 	3
<p>■</p>	
<p>評価項目 (A:優れている B:適切である C:おおむね適切である D:要改善)</p>	評価Ⅳ
<p>アンケート等、自己評価の根拠となる資料は適切か</p>	B
<p>自己評価の結果の内容は適切か</p>	B
<p>自己評価の結果を踏まえた今後の改善策は適切か</p>	B